

プロローグ

筆者は『日欧比較文化研究』(第25号)で「ホスピタリティ」とは何か—『広辞苑』と『大辞林』の場合(2021)を投稿し、その際いくつかの問題を指摘したが、本稿ではその1つとして「ホスピタリティ」が一般化した時期について、『大辞林』(初版、1990年4月)、『広辞苑』(第6版、2008年1月)がそれぞれ初出(ただし、表記は「ホスピタリティー」)であったことから、1980年代がひとつの時期ではないかとの仮説を立てて一般的な国語辞典のリサーチを行った。また、その定義の背景に観光産業の影響が大きいのではないかと考えている。

1 『広辞苑』と『大辞林』から見えたもの

筆者は「『ホスピタリティ』とは何か—『広辞苑』と『大辞林』の場合(2021)で2大辞典のリサーチから見えたものとして以下の5点を指摘した。

- ① 『広辞苑』(第5版、1998年11月)には見出し語には掲載されなかったが、『大辞林』(初版、1990年4月)では見出し語で取り上げられていたことを考えると、1980年代には「ホスピタリティ」という言葉や概念が日本に受容されていたようだ。
- ② 表記として「ホスピタリティー」と長音表記になっている。英語では“hospitality”、発音記号としても[hɒspətəˈlɪti]と長音記号[:]が含まれていないも関わらず、日本語では「—」長音記号が入っている。英和辞典などでは「ホスピタリティ」とな

っているが、他の日本語の辞書では『広辞苑』や『大辞林』の影響を受けてか、「ホスピタリティー」となっている。

- ③ “hospitality”の語源の意味を反映させているのは『大辞林』の初版（1990年4月）に「否定住の宗教者や異端からやってきた特殊な職業人を神の化身のごとく見なして歓待する風習。異人歓待。外者歓待。」との記載があったが、第2版以降はすべて削除されている。
- ④ 最新の『広辞苑』（2018年1月）と『大辞林』（2019年9月）では「客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持。」「丁重なもてなし。また、もてなしの心。」という定義になっており、共通することは、単なる「もてなし」ではなく、「親切な」あるいは「丁重な」という形容詞がついている。
- ⑤ もてなす対象が『広辞苑』では「客」とあり、『大辞林』には対象者が特定されていない。『大辞林』（初版）では「異人歓待。外者歓待。」の意味があり、これが第2版以降では削除されているが、本来は家族のようないわゆる身内に対してのものではないということだろう。『広辞苑』ではこの部分が「客」という表現で残されていることで外来者を対象にしたものであることを担保している。⁽¹⁾

今回のリサーチでは第1点と第2点を意識して一般の国語辞典、その次に外来語辞典、その他の3種類に分けてリサーチを行った。おもに1980年代以降のものを中心にした。

2 国語辞典と外来語・カタカナ語辞典の「ホスピタリティー」

リサーチの結果を時系列で以下紹介しておきたい。なお、英語の表記の記載は省略した。

林幸行／南條文雄増補者『国語辞典』修学堂、1904年12月
ホスピタリティ 見出し語なし

勝屋英造編『外来語辞典』二松堂書店、1914年2月
ホスピタリティ 見出し語なし

日本大辞典刊行会編『日本国語大辞典』（第18巻）小学館、1975
年11月
ホスピタリティ 見出し語なし

金田一春彦・池田弥三郎編『学研国語大辞典』学習研究社、1978
年4月
ホスピタリティ 見出し語なし

三省堂編修所編『広辞林』（第6版）三省堂、1985年3月
ホスピタリティ 見出し語なし

尚学図書編『言泉』（初版）小学館、1986年12月
ホスピタリティ 見出し語なし

斎藤栄三郎編『外国からきた新語辞典』（第6版）集英社、1989
年4月
ホスピタリティー 歓待。厚遇。(p.363)

石綿敏雄編『基本外来語辞典』東京堂出版、1990年9月
ホスピタリティー 客のもてなしのよいこと。親身になって世
話をする。至れり尽くせりの心使い。◆ラテン語

hospes 「客をもてなす主人」「客」、hospitale (ホスピタルの項参照) から。(p.808)

矢ヶ崎誠治監修『ポケット版外来語新語辞典』成美堂出版、1993年6月

ホスピタリティー 歓待；もてなし (p.413)

三省堂編修所編『官公庁のカタカナ語』三省堂、1994年4月

ホスピタリティー もてなし。歓待。厚遇。客のため情報提供体制を充実させ、外国人が国内を旅行する際の最大の障害である言語障壁の問題を緩和し、日本人とふれあうのできるホスピタリティーを整えた観光地を作ることが大きな課題となっている。(p.492)

※『観光白書 1994』への指摘

堀井令以知編『外来語語源辞典』東京堂出版、1994年6月

ホスピタリティー 見出し語なし

稲子和夫『現代新語辞典』梧桐書院、1994年12月

ホスピタリティー 見出し語なし

旺文社編『カタカナ語・略語事典[改訂新版]』旺文社、1996年1月

ホスピタリティー 厚遇。もてなし。温かくもてなすこと。もてなしぶり。

北原保雄編『明鏡国語辞典』(第2版)大修館書店、2010年10月

ホスピタリティ 心のこもったもてなし。また、もてなしの心。
(p.1609)

松村明編『大辞泉』(第2版) 小学館、2012年11月

ホスピタリティー ①心のこもったもてなし。手厚いもてなし。
歓待の精神。 ②異人歓待。(p.3352)

見坊豪紀編『三省堂国語辞典』(第7版) 三省堂、2014年1月

ホスピタリティー 旅行者や客を親切にもてなすこと。歓待。
(p.1421)

中村徳次監修『ポケット版外来語新語辞典』、成美堂出版、2015
年4月

ホスピタリティー 歓待；もてなし。(p.524)

林四郎監修『例解新国語辞典』(第6版) 三省堂、2016年1月

ホスピタリティ 見出し語なし

芳賀靖彦編『学研現代標準国語辞典』(改訂第3版) 学研プラス、
2016年2月

ホスピタリティ 見出し語なし

小野正弘編集主幹『三省堂現代新国語辞典』(第6版) 三省堂、
2019年1月

ホスピタリティ (一) 親切にもなてなすこと。歓待。(p.1294)

山田俊雄編『新潮国語辞典』(第2版) 新潮社、2019年11日

ホスピタリティ 見出し語なし